

かぬま

No.26

開場 20 周年記念号



鹿沼カントリー倶楽部

ごあいさつ

- 矢野登理事長 2
柳田誠二郎会長 4
藤松正憲常任顧問 5
福島充社長 6
福島文雄副社長 7
福島章夫専務取締役 8

寄稿

- 相沢正三理事 23
阿部文治理事 24
田沢義明理事 25
桜井勝一理事 26

月例杯平均ストロークによる
全45ホールの難易度調査 27

20年の歩み〈年譜〉 9

倶楽部だより 32

〈グラフ〉

開場20周年式典 15

フェアウェイ歳時記・春夏秋冬 19

編集後記 36



ごあいさつ

開場20周年を祝して

● 理事長 矢野 登

開場20周年の記念「かぬま」を発行するので寄稿するよう連絡があった。ペンを取って見ると、20周年記念号との銘をうつ以上、創立当時の思い出などを書かないと紙上を飾るのにふさわしくないのでは、なかなか筆が進まなかった。

それは、私が鹿沼カントリー倶楽部のキャプテンをお引受けしたのが昭和55年の春であるから、入会6年目という短期間の思い出のみである。それでも原稿用紙に書き初めると、色々の出来事が走馬灯のように浮かんできた。まず最初の出来事は、昭和38年頃の事である。

ある秋の日の夕刻、仕事を終えて帰宅しようと準備中の事務所に、2人の青年の来訪を受けた。1人は旧知の福島章夫君、現専務取締役。同道したのは章夫君の実兄で初対面の文雄君、現副社長であった。

来意は「今度鹿沼にゴルフ場を計画したので、宇都宮に事務所を欲しい」との事であった。当時ゴルフに熱中していた私は、早速三共物産ビルの一室を提供する事にした。その後、若い張り切った青年社員の活動が始まった。事務所の使用は1年位で終わったが、その間、当倶楽部予定地を視察する事ができた。

視察をしていて特に記憶に残っているのは、現在の北インの11番から12番にかけてであった。北12番の打ち下しは急坂で、コースにするのは無理があるのではないかと質問したところ、「ショートコースで最も面白いコースができると思う」との返事に驚いた事も記憶に残っている。それにしてもコースの全体は立木を切り倒したばかりで、この起伏の多い土地をゴルフ場に仕上げる作業が果して順調に進みうるかと心配しながら、激励の言葉を残して辞去した思い出がはっきりと残っている。

その後十余年、国会に席を置く事になり、東京に住むようになった私は、ゴルフとも別れる事になり、鹿沼カントリーのオープンにも出席できず、ご無沙汰を続ける事になった。

昭和51年、国会を辞して後、月3、4回ほどゴルフをするようになった。荒れた山林の思い出が残る鹿沼カントリーにも足を運んだが、意外なほど整然と完成したコースを目のあたりにして、人間の力の偉大さに驚き、章夫専



務と苦心談を聞きながら一緒にプレーをして、1コース毎に将来の改造計画を聞く事ができた。「将来、自分のホームコースは鹿沼」と決めたのもこの時であった。

54年の秋になって理事長就任の話が出たが、年齢を考え固辞した。が、当時の足銀の藤松頭取からもお話があり、重責を引受ける事になった。

理事長を引受けてからの私の注文は、サービスの向上対策一本であった。

1. コースの整備による楽しいプレー、これがサービスの根本である事。
2. 社員全員のサービス精神の向上。

特にキャディ諸君は来場者一人ひとりに奉仕する事になる。従ってキャディ諸君のサービスの向上は、ゴルフ場全体のイメージアップにつながる。

この程度の私の注文であったが、実際は私の注文以上に毎月の計画が組まれる様になった。55年に私が理事長に就任して以来、主なコースの改造は次のようになっている。

◇北16番の池の拡張・整備◇南14番・15番のロング・ミドル組みかえ◇黄金3番の距離延長◇黄金4番の改造◇北1番・13番などの池造成◇黄金溜への架橋◇コース全般のグリーン及びティーグラウンドの改造◇駐車場の拡張。

特に私の喜びは、借金をしてもコースの改善を進めるという経営陣の態度であった。最近では改造資金の心配が私の役目のようにになっている。

鹿沼カントリー倶楽部のキャディ諸君のサービスの良い事は、すでにゴルフ界に定評がある。

私が鹿沼カントリーに案内した経験のあるゴルファーの感想の第一に出て来るのが、キャディ諸君の親切な態度である。お世辞でなく私の出入りするゴルフ場の中で、当倶楽部ほどキャディ諸君の親切なゴルフ場に行った事は記憶にない。朝夕の送り迎えの徹底振りも賞賛に値するものがある。「あんなに親切にされるので、僕は帰る時、次の鹿沼カントリー行きを決定している」私の親しい友人の言葉だが、私もいつもこの心境である。

今、私は、当倶楽部の理事長をお引受けした事に最高の誇りと喜びを感じている。社長、副社長、専務の、それぞれに笑顔を忘れない日常が、この会社を挙げてサービス精神に徹底した社風を築き上げた事は議論の余地がない。

20年の節目を第二の出発点として、次の飛躍をご期待申し上げ、欄筆いたします。

(三共物産(株)取締役会長)



ごあいさつ

健康づくりの責務を負って

● 取締役会長 柳田 誠二郎

今日のゴルフの隆盛は、日本人が、いかに健康を希求するようになったかの証明であります。健康を考えるだけの、ゆとりが、我々日本人にも生まれてきたという事なのでしょう。

しかし、これは見方を変えれば、健康を意識して考えなければならない程に、我々は健康を脅かされているという逆説にもつながります。

経済や科学の進歩が人間の生活向上に果たした役割を否定するわけにはまいりませんが、反面、文明によって真の健康が害われてきているという事実も見逃がす事ができません。

最近タバコを吸う人が減っているにもかかわらず肺ガンが増えつつあるのも、世の中が忙しくなって人々の呼吸が知らず知らずの内に浅くなったという微妙な関係によるのだそうです。

人々は健康を願い、ますます運動を求めます。健康は家庭の財産であり、国の宝でもあります。と考えれば、ゴルフ産業というのは単にレジャー産業というにとどまらず、国民の健康づくり、ひいては国の財産づくりという極めて重要な責務を担っていると申せましょう。

今日ここに、20年の長きに亘ってこの大事な責務を果たし、記念の祝典を挙ぐるにあたりまして、私は当倶楽部会員の皆様ならびに経営陣、社員の諸君に対し、深く感謝の意を表すると共に、向後はさらに会員の皆様また経営陣、社員の方々が一体となり、和気藹藹のうちに、この重大な責務を果すべくお骨折り下さるよう心からお願い申し上げます。

薫風や

このティーに立ち

二十年

(日本航空(株) 相談役)



ごあいさつ

開場20周年によせて

● 常任顧問 藤松正憲

当倶楽部は昨年12月21日、盛況裡に開場20周年を迎えましたが、その歩みは決して坦々たるものではありませんでした。当初より土地の確保、会員募集等に複雑な問題があつて、難産の末やっと開場に漕ぎ着けたものの、長らくその後遺症に悩まされ、途中で何回か挫折しかけたように聞いております。

福島社長が、共同経営者であつた県外企業と手を切り、単独で経営されるようになって面目を一新し、ようやく軌道に乗りました。その前後から私も、福島父子の雄大なゴルフ場建設計画と、これに賭けるすさまじい熱意に動かされ、相談にあずかるようになり、今日に及んでいる次第です。

当倶楽部が現在のような繁栄をみるに至つたのは、もともと美しく、そして穏やかな自然環境の中に立地し、地形また起伏緩急よろしきを得、ゴルフ場には最適であり、また東北縦貫道路の開通、ゴルフブームの到来などの幸運に恵まれたことによるものと思われませんが、結局は、福島さん御一家が相協力してこれら恵まれた諸条件を十二分に活用し、先見的経営に励まれ、その血の滲むような努力が花開らき、実を結んだものといえましょう。

今では45ホール、年間入場者15万人で、県内70のゴルフ場の最右翼の地位を占め、納税、雇用、関連産業の育成など地元発展に多大の貢献をしております。

私は、当倶楽部の気取らない大衆的な雰囲気が好きで、宇都宮在住中はよく利用しました。ふらっと一人で行くことが多かつたので、東京・埼玉・千葉方面からのフリーの来場者と一緒に廻り、大いに若返つて一日を楽しく過ごしたものです。いまは懐かしい思い出です。

昨年、記念式典に参列のため、三、四年ぶりに倶楽部を訪れましたが、瞥見したところコースも大分改良され、また良く手入れされておるようで、計画中の9ホール増設完成の暁には一段と素晴らしいコースになることと期待しております。

「自分でやるスポーツ」としてゴルフの大衆化は大いに歓迎すべきことですが、反面、プレーヤーのエチケット、マナーの乱れ、進行渋滞、従業員とくにキャディの不親切、行儀の悪さなどが、方々のゴルフ場で問題になっておるようです。当倶楽部には、かかる苦情が出ないようお互いに相戒め、みんなが楽しくプレーできる立派なゴルフ場として、ますます発展するよう願っております。各位の一層のご協力をお願いいたします。

(足利銀行 相談役)



ごあいさつ

謹んで感謝

—● 代表取締役社長 福島 充

鹿沼カントリー倶楽部が、お蔭様で満20歳を迎える事ができました。

鹿沼カントリー倶楽部を創る上で力を貸して下さいました方々、そして20年間、あたたかく時に厳しく育てて下さった方々、これら多くの皆様お一人お一人に、心をこめて「ありがとうございました」と御礼を申し上げます。

建設を計画した時から数えますと、すでに4分の1世紀の間、私は鹿沼カントリー倶楽部と共に歩んでまいりました。長く、そして短い、また辛く、楽しい四半世紀でありました。

ゴルフという素晴らしいスポーツを、自分の生涯の仕事にする事ができました事、そして、鹿沼という素晴らしい風土を生かして、わずかではあっても地域社会に貢献できました事は、私の何ものにも代えがたい喜びでございます。

長い間、苦勞を共にして下さいました皆様と、しみじみこの喜びを分かち合いたいと存じます。

ゴルフは西洋で生まれたものでありますが、緑の中を散策し、自然と対話し、自然との一体感を体験するこのスポーツは、もともと東洋的な趣きがあります。和歌や俳句を生んだ我が国で、ゴルフが今のように隆盛をみたのも、当然といえば当然の事なのでしょう。

西と東の国境を越え、ゴルフは今や全地球的なスポーツとなりました。人間の根源的な要求に根ざしたこのスポーツは、おそらくは、これからも衰微する事なく生き続け、大衆に愛され続けるものと思われまます。

そんな中で鹿沼カントリー倶楽部が果たして何歳まで生き続けるのか、我々には知るすべもありませんが、それが何年であれ、その最初の20年間を、我々が涙と笑いをもって共有する事ができたという事実は厳然たるものがあります。

皆様から愛され親しまれるゴルフ場として生き続けることを願い、重ねて皆様に感謝申し上げる次第です。

二十路を

迎え労苦の

報われし 四柳



ごあいさつ

夢は変わらず

—● 代表取締役副社長 福島文雄

当倶楽部は、今をさかのぼる事23年前の昭和36年に、当社長の福島充が地元代表として建設に参画いたし、3年後の昭和39年10月に、県下9番目のゴルフ場としてまず北コース18ホールをオープン、続いて翌年、南コース18ホールをオープンいたし、36ホールという、当時としては、まれに見る大型コースとしてスタートいたしました。

昭和45年には、(株)鹿沼カントリー倶楽部として独立、福島充が代表取締役に就任いたしまして、以後、鋭意、経営の刷新を図る一方、黄金コース9ホールの増設、あるいはクラブハウスの大改造など、逐次、施設の充実を図りながら、今日に至っております。

この間、鹿沼カントリー倶楽部を主軸として、グループ各企業が派生いたし、昭和50年には、鹿沼72カントリークラブが36ホールをオープン、続いて昭和53年に、静岡県に富士御殿場ゴルフ倶楽部が18ホールをオープンいたしました。

さらに、グループの主眼である「健康と安らぎ」の場の拡大を目指しまして、東京六本木と宇都宮にアスレティッククラブ「VIVI 鹿友倶楽部」を、群馬県に「尾瀬岩鞍スキー場」を、さらにタイ国に「サリカ・コーヒー農場」を建設、お蔭様で、それぞれ健全な経営を行っております。

当倶楽部の、今日に至る道のりは、決して平坦なものでなく、時には厳しい風雪を通り抜けてまいりましたが、私共の建設当初からの変わらぬ願いは、

- ◇一つには、地元の振興発展に寄与させていただく事、
 - ◇また一つには、大衆のスポーツとしてのゴルフの普及に貢献する事、
 - ◇加えて、長期構想として、名門コースと呼ばれうるゴルフ場に育てる事、
- 要約すれば、以上の3点でございました。

この20年の歩みの中で、お蔭様で、先の2つの目的につきましても、微力ながら、なんとか、その一部を果たす事ができたように思っております。

今後は、この20周年を契機といたしまして、3つ目の願いであります「名門コース」を目指し、全力を傾けて邁進してまいりたい決意でございます。

この願いに添い、すでに、新たな9ホールの増設計画を策定いたし、一部、関連工事にも取りかかっている現況にあります。54ホールという、超大型の名門コースを建設する事が私共の夢でございます。この夢の早期実現のために、社長、副社長、そして専務の福島章夫以下、全社員一丸となって最大限の努力を続けてまいりますので、どうか皆様、今後共、倍旧のご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、ひとえにお願い申し上げます次第でございます。

最後に会員各位のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。



ごあいさつ

夢の実現に向けて

● 専務取締役 福島章夫

私は昭和54年より当倶楽部の現場責任者として赴任しました。

当時は、他ゴルフ場と同様、平日の入場者が余り多くなく、当倶楽部は所帯の大きな分、余計厳しい状況でありましたため、やむをえず土曜・日曜に依存する事が多く、皆様にご迷惑をおかけした時期がございました。

しかし、矢野理事長はじめ理事会、委員会の皆様のご助力を賜りつつ、プレーヤーに楽しんでいただけるコースづくり、プレーヤーに満足していただけるサービス提供に力を注ぎました結果、幸いゴルフ人口の増加という背景もあって平日の入場者が漸増し、次第に土曜・日曜への依存を脱却する事ができました。

その後は、会員の方にできるだけ数多くプレーしていただくため「スタートご予約の円滑化」に目標を定め、ビジター入場の抑制から、さらには毎月二度の「メンバーデー」の設定と、少しずつ努力を続けてまいった次第です。

しかしながら、まだまだ理想とは程遠く、今後倍旧の努力が必要である事は申すまでもございません。

目下、さらに9ホールの増設を計画いたしておりますが、この9ホール増設を土台として、理想を実現すべく、多くの会員の皆様にご意見をお聞きしながら、じっくりと計画を押し進めてまいりたく考えております。

私は、赴任当時から、ゴルフ場の経営に関する知識もほとんどないまま、ただひたすら「プレーヤーの身になって考える」事だけを忘れずに無我夢中で努めてまいりました。その結果、そう大きな誤ちはしなかったように思います。従って、これからも、この原則を大切に貫いてまいる所存でございます。

しかしながら、たえずプレーヤーの身になる事は、そう容易な事ではございません。それを可能にするには、どうしても会員の皆様のご鞭撻とご叱声が必要となります。何卒引き続きましてご高配を賜りますよう、ひとえにお願い申し上げます。

20年の歩み



造成中の鹿沼カントリー倶楽部（昭和38年）



開場風景（昭和39年10月）

昭38年

年	月	日	
38	6	27	北12番グリーン周辺にて、東久邇稔彦氏外400名参列、おごそかに地鎮祭を挙げる。
	7	2	コース進入路伐木より工事開始。
	7	27	池の森地区地主協力会結成、土地利用の承諾を全員より受け、8月3日契約金支払。

昭39年

39	2	1	クラブハウス起工式。
	3	2	市道を、コース東側へ用地買収し付け替え始める。
	3	10	鶴飼神社社地を同神社境内西隣に買収の上、ここに遷座することに決定。
	4	20	池の森小学校通学路敷買収の上新設工事着手。
	5	8	古墳発掘、副葬品多数出土する。
	4	28	水源地井戸堀完成。
	10	20	クラブハウスの落成、北18ホールズの完成により盛大なる開場式を挙げる。18ホール営業開始。
	12	25	黄金コース用地買収交渉始める。

昭和39年、開場の年の主な出来事

- ◆6月 新潟大地震。
- ◆9月 義宮さまと津軽華子さん御結婚。
- ◆10月 東海道新幹線営業開始。
- ◆10月 東京オリンピック開幕。
- ◆10月 池田首相退陣、佐藤栄作氏にバトンタッチ。



第3回理事会（昭和47年2月）



タイから贈られた小象のヒロバ君と遊ぶ倶楽部近辺の小学生たち（昭和47年10月）

昭40年

年	月	日	
40	2	21	南1～2の右側へ貯水池造成工事起工する。
	5	18	社員寮「楡の木荘」建築工事開始。
	9	23	南コース18ホールオープン、36ホール営業開始。
	11	28	ゴルフ練習場開場。

昭41年

41	9	25	台風26号のため練習場、北10スタートハウス全壊、風倒木200本、建物破損等の災害甚大。
----	---	----	--

昭42年

42	8	17	林業事務所にて「きじ」15羽放鳥。
----	---	----	-------------------

昭43年

43	8	20	近年にない雷雨襲来落雷多くハウス周辺5か所、送電線故障、待ち組掲示灯全壊等甚大な損害となる。
	9	4	林政第139号銃猟禁止区域指定。

昭44年

44	10	19	開場5周年記念競技実施。
----	----	----	--------------

昭45年

45	5	27	水源地为東北縦貫自動車道の敷地となるため日本道路公団との交渉成立、道路南側道に面した地点へ移転。
	10	17	株式会社鹿沼カントリー倶楽部新経営陣にて継承事業運営開始。



開通当時の東北縦貫自動車道（昭和47年11月）



高松宮殿下ご来場（昭和48年10月）

昭46年

年	月	日	
46	2	7	鹿沼カントリー倶楽部第1回理事会開催。
	2	19	北16、17番ホール改造工事着手。
	9	2	月曜定休日を木曜定休日に変更。
	9	21	パブリケーション委員会にて会報「かぬま」発行決議。
	11	22	北16、17番ホール改造終了修祓式挙行。

昭47年

47	1	12	福島充代表取締役社長に就任。
	1	14	柳田誠二郎取締役会長に就任。
	10	16	高松宮殿下ご夫妻ご来場。
	10	20	タイ国バンコクの松田嘉久氏から大阪万博にて出生した象（ヒロバ）が贈られる。
	11	13	東北縦貫自動車道、岩槻一字都宮間開通。

昭48年

48	7	23	VIVI鹿友倶楽部六本木オープン。
	10	11	高松宮殿下ご来場。

昭49年

49	7	3	クラブハウス増改築工事開始。
	9	26	TBS テレビ圭三訪問に鹿沼カントリー倶楽部登場。
	10	10	開場十周年記念式典挙行。黄金コース9ホール、オープン。



開場10周年記念祝賀会（昭和49年10月）



黄金コース開場式（昭和49年10月）

年	月	日	
49	10	12	十周年記念祝賀競技会。
		15	〃
	11	2	〃
		4	〃
11	13		矢野秀男理事長逝去される。

昭50年

50	3	22	鮎田昇平氏、理事長に就任。
	7	20	姉妹コース、鹿沼72カントリークラブがオープン。

昭52年

52	8	8	VIVI鹿友倶楽部宇都宮オープン。
----	---	---	-------------------

昭53年

53	8		南10番ホール手前に駐車場を増設。
	9	24	姉妹コース、富士御殿場ゴルフ倶楽部がオープン。
	10	6	鹿友会（60歳以上コンペ）発足。

昭54年

54	8		キャプテン杯競技を新設。
	10	19	開場15周年記念競技実施。
		21	
	11	1	福島章夫が支配人に就任。
11			コースの全面的改修を実施。池を増設（北1番、北13番）



白つる会(プロ・シニア)を開催(昭和56年 3月)



黄金溜新橋完成(昭和57年 3月)

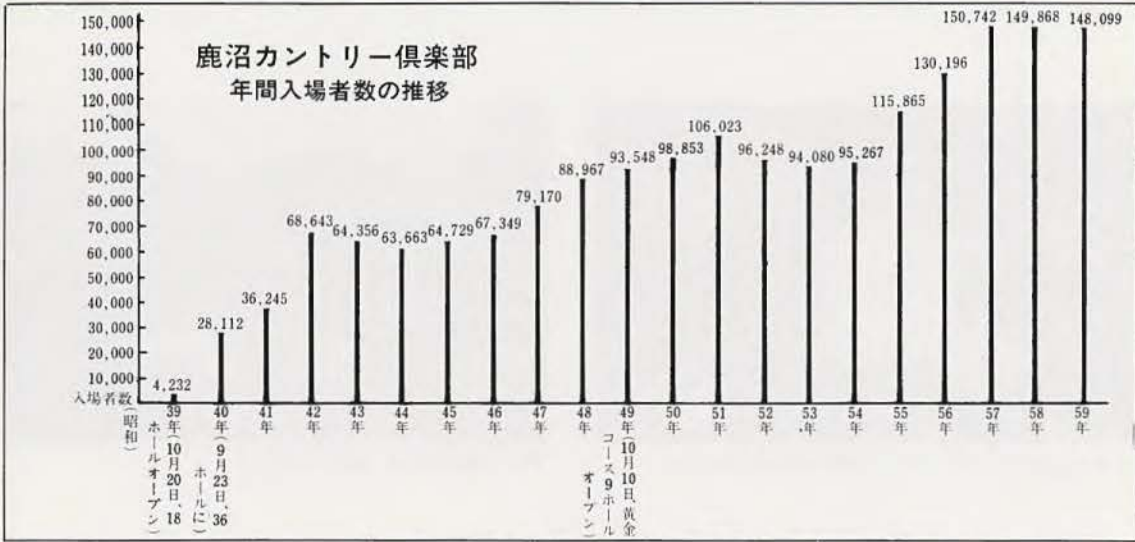
年	月	日	
54	12		明治会(明治お生まれのコンペ)発足。

昭55年

55	3		クラブハウス改造完了。(食堂拡張。男子浴室改装。女子浴室・トイレ・ロッカー室の移設。)
	6		ロッカーフィーが無料に。
	10	21	キャディ労組が自主解散。
	12		食堂に焼肉コーナーを新設。

昭56年

56	1	1	ハンディキャップを「倶楽部ハンディキャップ」に一本化。(JGAハンディキャップを不採用)
	3	19	白つる会(プロ・シニア)開催。
	4	1	矢野登氏が理事長に就任。
	4		スタート予約をコース内予約センターに一本化。
	7	7	朴喜注氏(東京)が1日に2度ホールインワンを達成。(北17番、黄金2番)
	7	9	第一回夏季ファミリー周遊サービスを実施。
	8	12	黄金4番ホール改造が完了。使用開始。
	8		北16番ホールおよび南7番ホールの池を拡張。
	9		ハウス内売店を拡張・改装。
	10	10	バッグ重量オーバー割増料金を撤廃。
	10		北1番裏側に駐車場を増設。
	11	3	第10回鹿沼市民ゴルフ大会(45ホール開放)
	12		ロッヂを撤廃。近辺ホテル・旅館と宿泊提携。



※57年時を最大限の収容人数とみなし、以後は土曜・日曜のピジター抑制など、むしろ「入場者数の削減」へと転換をはかってきております。

昭57年

年	月	日	内容
57	3	27	黄金溜新橋オープン。
	4		男子浴室を拡張・改造。サウナルームを新設。
	5		メンバーデー(第4日曜日)を設定。
	7		黄金3番ホールのグリーンを移設。(使用開始)
	7		社員寮「楡の木荘」を新築。
	8	13	南14番ホールをロングに、南15番ホールをミドルに改造。(使用開始)
	10	1	キャディ荒天手当、および時間外手当を撤廃。
	11		東北新幹線が開通。
	12	31	大晦日の営業を開始。

昭58年

58	6		当倶楽部で関東クラブ対抗競技予選を実施。
----	---	--	----------------------

昭59年

59	1		記録的な降雪に見舞われる。
	3	1	武山久が支配人に就任。
	4		降雪被害復旧工事に着手。
	5	1	第3、第4日曜日を「メンバーデー」に。
	10		北18番ホール改造完了。
	12		進入路つけかえ工事および駐車場拡張工事完了。
	12	15-16 21-23	開場20周年記念競技を実施。

グ ラ フ

開場 20周年式典

昭和59年12月15日、16日、21日、22日、23日の5日間にわたり、開場20周年記念競技が行なわれましたが、なか日の21日には、記念の式典が、倶楽部理事・委員の皆様、そして地元政官財界より来賓約250名のご臨席をえて盛大に挙行されました。

はじめに矢野登理事長が挨拶に立ち、「20年前のオープン当時のゴルフ場経営は、なかなか大変でしたが、今では入場者数も県内一。社長以下、全社員一丸の工夫努力が今日の繁栄を築いたものでしょう。今後、会員の皆さんに喜んでもらえる構想も着々と練っておられるようで、理事会も応援して、いっそうの発展を期したい」と述べ、続いて藤松正憲常任顧問が「当倶楽部の繁栄が、雇用や税金面でも大きく地元へ貢献しています。ゴルフ場も今後、競争が激化すると思われるが、この“成人式”を機に、さらにゴルファーに喜ばれるゴルフ場づくりに努めていただきたい」と挨拶。

次いで、推津弘之栃木県副知事をはじめ来賓各位より励ましの言葉があり、さらに桜井勝一理事の特別表彰、福島文雄副社長の経過報告、永年勤続者表彰と滞りなく進んで、最後に福島充社長が「皆様のお誉めの言葉や今後のご期待に身の引締まる思いです。今後も倶楽部の充実・発展に努力を惜しみません。皆様の変らぬご支援をお願いしたい」と謝辞を述べ、約1時間半の式典を無事終えました。



開会の辞を述べる相沢正三理事。



まず倶楽部を代表して矢野登理事長が挨拶。



次いで藤松正憲常任顧問が挨拶。

来賓挨拶



栃木県副知事・推津弘之氏。



自民党県連最高顧問・小平久雄氏。



鹿沼市長・古沢俊一氏。



今市市長・斎藤昭男氏。



衆院議員・船田元氏代理・小林秘書。



鹿沼商工会議所副会頭・福田武氏。



足利銀行常務取締役・大谷武二氏。



祝賀式典風景。



謝辞を述べる(株)鹿沼カントリー倶楽部
福島充社長。



経過報告をする(株)鹿沼カントリー倶楽部
福島文雄副社長。



倶楽部発展の功労大として理事会特別表彰を受けた桜井勝一理事。



永年勤続者表彰。



記念競技表彰式。



安納定緒氏（栃木県ゴルフ場支配人会会長）の音頭で乾盃。



閉会の辞を述べる田澤義明理事。

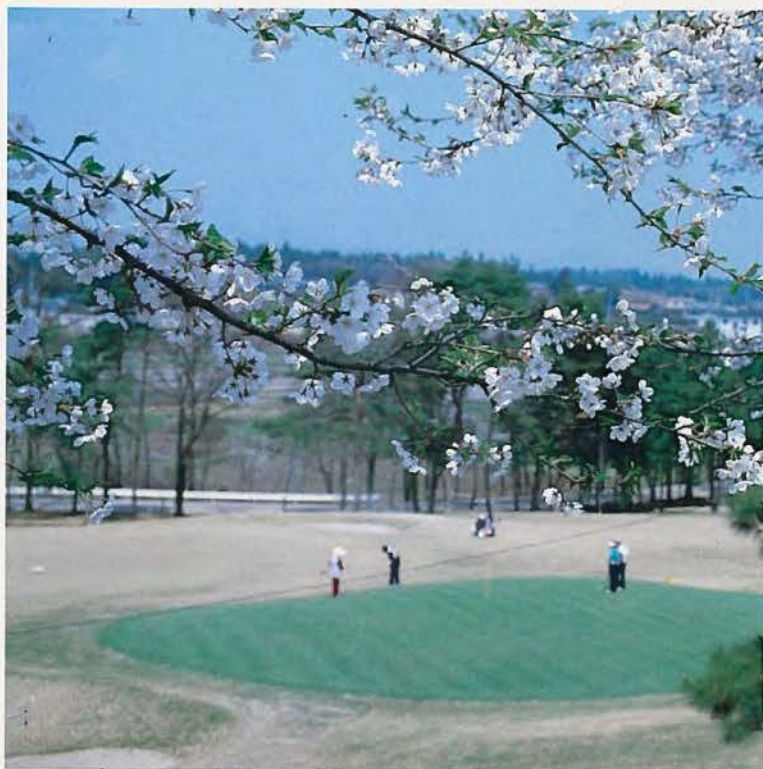


司会をつとめた武山久支配人。

春

フェアウェイ歳時記

フェアウェイを春一番が吹きぬける頃、コースが少しずつ自らの主張を語り始める。厳しい寒さの間ちゆう、ひっそりと眠っていたかに見えて、その実、新たなチャレンジを受けて立つ技を、模索し続けていたかのように。



夏

フェアウェイ歳時記

容赦なく炎熱を降りそそいだ太陽が、ようやく西に傾き、思いがけない涼風が日暮らし蟬の声をのせて頬を打つ。

カナカナカナ……。自然との同化の一瞬。
ホールアウト間近かな足どりが急に軽やかになるのは、クラブハウスで待つビールのせいだけではないのかも知れない。



秋

フェアウェイ歳時記

いっとき鮎に心を奪われていた仲間が帰ってきた。猛暑の中、黙々とクラブを振り続けた成果は、ライバルの釣果を超えていなくてはならない。

夏らしい夏を過ごしてベントも上々の仕上がりが。桜下の怨みを晴らす舞台が、今、ととのった。



冬

フェアウェイ歳時記

すべてがハザードに変身する冬。
堅牢なフェアウェイ、冷たく辛練な男体おろし。

ゴルファーのように頑固なグリーン。

これほど簡単に50を叩くとは……。

我々は、この時期、自然本来の冷酷さにたじろぎ、強くなる。



「暗黒時代」を経て

相沢 正三 (理事・ハウス委員長)

寄稿



『基敵は憎さも憎し懐し一』私には、これに似たゴルフ敵が三人いる。一人は、元いた会社に、二人は今の会社にいる。

元来お人好して、ゴルフの時の“握り方”が甘い。裏を返せばゴルフに限っては「天狗」である。“天祐”によってたまたま良いスコアが出る事があるのを、己れの腕の如く過信し、つつい不利な条件で“握る。ため、ハンデを上げていながらグロスで引き離される事が常時となっている。

己れの不甲斐なさに腹が立ち、最後に「吹っ消し」を掛ける。強引に「ルールブックにある」と揚言し、拒否権を認めず実行した結果、十数年間で一人は80%、一人は95%、一人は100%の「吹っ消し率」となっている。

二年程前の某日、名物のニューセントアンドリュースでの“私物コンペ”の際、私は絶不調で、池中へロストボール15個の新記録を出したが、その時、例の吹っ消し率100%のA氏に、(彼も不調であったにもかかわらず)すでに8ホール目で大敗けしていた。臨時特例で、ハーフで吹っ消しを掛けたところ、アベコベに倍額となった。その後17番ホールでは、またまた敗けが追加してしまった。

ところがここで再度吹っ消しを掛け、相手のO.Bと誤球とに助けられ、自分もトリプルを叩きながら見事に吹っ消し成功と相成った。当方にとっては会心、先方にとっては泣き切れない仕儀で、今だに時々、格好の話題となっている。

今まで何回も危うい場面があったが、不思議と吹っ消しが成功する。悔しがる相手に、私には正義の味方がついてると言っては、なお悔しがらせて、ニタついているのである。

ゴルフを始めて18年。最初の六年間は躍進期。爾後約10年間は混迷期が続いた。肉体の衰えを自覚せず、飛ばなくなったのを無茶苦茶に振り回してスコアを乱し、かえってドライバーが130メートルぐらいになり、泣き抜いた。この間のスコアカードは全部捨ててしまった。いわゆる「暗黒時代」である。日本の歴史にもブランク時代があったそうだが、これも同じ事かなと妙な一人合点をしている。

長い低迷を迷いながら過ごし、ようやく自分が衰えた事を自覚して飛ばす事を断念した時から、かえって安定したスコアが出るようになった。この間、ドライバーを6回も取り替えたが、道具ではなく腕を取り替えなければと知ったわけである。そのうえ、自分自身の工夫で中村プロ、樋口プロを真似てスウェー打法を開発、今では180メートル、たまには200メートルを超える打球を出すようになって、一人ほくそえんでいる次第である。(東野交通(株) 社長)

寄稿



すばらしい 自然環境をいつまでも

阿部 文治 (理事・ハンディキャップ委員長)

このたび鹿沼カントリー倶楽部が開場20周年を迎えました事は、会員の1人として誠にご同慶の至りでございます。心より御祝を申し上げます。

当倶楽部は、皆様ご存知の通り、西北に日光連山が夢幻の絶景を呈し、東南には筑波山が美しい裾を見せ、静かな黒川の悠久の流れ絶えぬ、文字通り山紫水明の地にあります。四季折々に花咲き、小鳥唄う自然環境は、昔と少しも変わる事なく、鹿沼をふるさととする我々の心をなごませてくれます。

経済の発展により変わりゆくふるさとの中にあって、当倶楽部がいつまでも自然の素晴らしさを伝えてくれる事を望んでやみません。

さて、生活が豊かになると同時に人々は健康管理にお金を使うようになり、それに伴ってゴルフが次第に盛んになりました。日本のゴルフ人口は、今や1千万とも2千万とも言われております。

ゴルフ場の数も1,300を越えたとかで、これは米国、英国、オーストラリアに次いで堂々、世界4位に位置するそうです。まさにゴルフ先進国、スポーツ先進国にふさわしいものがあります。

次回のソウル・オリンピックからはゴルフも競技種目の1つに加えられるとか。日本だけでなく、世界的なゴルフブームにますます拍車がかかりそうです。

お隣りの中国にもゴルフ場が誕生するとか聞いていますが、野球を「棒球」と呼ぶ国ではゴルフを何と名付けるのでしょうか。戦時中の日本ではカタカナ使用が禁止されたため、ゴルフは「打球」、ゴルフ場は「打球場」、フェアウェイは「芝地」、ラフは「野地」、パターは「短杖」、キャディは「打童」などと「改名」したとの事ですが、中国でも恐らくはこれに近い言葉が使われるのでしょう。

いずれにせよゴルフがますます大衆化される事は喜ばしい事です。

今後も鹿沼カントリー倶楽部が限りなく発展し、我々ゴルファーを楽しませ続けてくれます事を祈念し、あわせて皆様のご協力をお願い申し上げます。

(株)阿部商会 社長)

思い出の桜並木

田澤義明 (理事・食堂委員長)

寄稿



開場20周年おめでとう。その記念祝賀会のとき万才三唱の音頭をとって自席に戻り、いささか興奮気味でオープン当時のことを振り返った。

芝張りはしてあったが、ドロだらけのコースで、クラブのほかにはスパイクのドロ落としの棒切れを持ちながらプレーをしたことが思い出された。あれから20年たったのか。早いような、また遠い昔のような気持ちで、感無量なものがある。

現在パブリケーション委員をされているN氏とは仲好しフレンドで、開場当時は三日あけずに通ったものだ。今考えると、よく暇があったものだと感心する。いつも二人でドロ落としの棒切れを持ちながら、スパイクもズボンもドロだらけでドロコンボールを打つ格好は、決してスマートなものじゃない。当時のスコアは二人とも同じ程度の75くらいと記憶する。これはハーフですよ。

20年もやってきたんだから、今じゃ?……と聞く人もいる。まア、シングルまではいかなかったが、かなり上達したサ。

当時のコースには何ひとつ風情を添えるものがなかったので、花木でも進入路かスタートに植えてみたらと思ひ桜の木400本を寄贈させていただいた。

しかし、当時の倶楽部(福島社長が引継ぐ前)では、せっかく植えても、支柱はしないし、杉や雑木の下でなんの手入れらしい事もしない。あまり桜の木が可愛そうなので、通るたびに横芽を取ったりしたが、このぐらいでは知れたもの。当時のゴルフ場側では金もなく人手もなく、すべて元気がなかったように思われた。その後かなり枯れてしまったが、今残っているものは不況に?不遇に?強い抵抗力のあったものばかりといえよう。

ここ数年、福島社長は、この桜の満開の頃には必ず写真を撮って送ってくれる。そして当時をしのび、大きくなって立派に咲いたと喜びを書き添えてくれる。その心根に私はいつも感謝している。

桜の並木を通るたびに、いつまでも若さ(?)を保ちプレーできる事を願う。

最近の当倶楽部は、人間関係といい、サービスといい、コースの状況といい、今昔の感がある。この事は衆目の認めるところだが、各ホールの古い見事な松の木が、松くい虫のため次々と姿を消している事は淋しい限り。代わりの樹を植えるなど倶楽部も努力をしておられるようだが、なんとか良い知恵はないものか。

今後とも愛される鹿沼カントリー倶楽部としていつまでも発展される事を望んでやまない。

(田澤工業(株) 社長)

二十年を顧り見て

桜井 勝 一 (理事・競技委員長)

寄稿



鹿沼カントリー倶楽部開場20周年、誠におめでとうございます。

その20周年の記念式典が昨年12月21日、当クラブハウスで盛大に取り行なわれました。御来賓には県の政財界のトップの方々ばかりをお迎えしての式典にて、鹿沼カントリー福島社長の常日頃の公私にわたる御交際の広さを改めて感じ入った次第です。

その席上、不肖私が20年間にわたりメンバーとして最多数来場したという事で、思いもかけず理事会特別表彰の栄を得、万感胸に迫るものがありました。

私といたしましては、特別な事をしたわけではなく、ただ好きなゴルフを続けてきたに過ぎず、このような一生の思い出に残る表彰をいただきましたのは、鹿沼カントリー倶楽部を愛する先輩および友人の皆様、鹿沼カントリーの関係者の方々の御協力の賜物と心から感謝いたしております。

鹿沼カントリー創立と同時にゴルフを覚え、それまでの趣味は全部返上し、ゴルフの虜となり、幸い鹿沼カントリーが車で10分程の所にあったことから、我が家の庭のような気持で通い続けました。もともとは当時80キロの体重を何とか減らすべく始めたゴルフですので、2年間で元の体重63キロに戻った時は本当に嬉しく思いました。

今、20年を振り返り、ゴルフとは何であったかを考えますと、ゴルフほど面白く、その反面、難かしく奥の深いスポーツは無いという結論に達します。そして、つまるところ、自分との闘いであるところにゴルフの面白さがあり、飽くことのない所以があるのだと思います。

始めて間もない頃は、毎日練習に練習を重ね、今度こそと意気込んでコースに行き、思うようなスコアでプレーできず、空しく帰路につく事が何度あったのでしょうか。でも、まだまだ練習が足りないのだと心に言い聞かせて、黙々と練習に励んだ事を思い出します。そして、時には良いスコアが出たり、また崩れたり繰り返しながら、少しずつ上達してきました。当時のアシスタントプロにも良き指導を受けられた事が、非常に幸いしていると思います。

ゴルフは、体力に恵まれ運動神経の発達している人が有利である事に異議を挟みませんが、同等の場合は、力、技術よりも精神面の強固な人の方がより強いゴルフ、粘りのあるゲームができる事を、長年にわたり、イヤというほど体験してきました。「ドライバーはショーであり、パットは金である」という有名な格言も、まさにその通りであると思います。

今後、競技委員として技術向上に励む事は申すまでもありませんが、好むと好まざるにかかわらず、後輩にアドバイスする機会が増えると思います。そのような折には、基本的技術はもとより、精神力の強化、パットの大切さに力を入れて行きたいと考えます。

鹿沼カントリー倶楽部も、創立20周年を基に、さらに30周年をめざし、一段と飛躍されんことを祈ります。

(元桜井鉄工所 社長)

月例杯平均ストロークによる 全45ホールでの難易度調査

北アウト

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	TOTAL
メートル (BACK・BG)	370	176	265	412	443	141	339	352	446	2,944
パ	4	3	4	4	5	3	4	4	5	36
平均 ストローク	4.43	3.85	4.84	5.23	5.73	3.98	4.93	5.17	6.19	44.35

※昭和60年2月24日・Aクラス月例杯競技者156名の平均ストロークです。(天候)晴・強風

意外に難度が高いデータが出た北3番ミドルホール。

予想通り北アウトで難度No.1の北4番ミドルホール。



北イン

No.	10	11	12	13	14	15	16	17	18	TOTAL
メートル (BACK・BG)	453	342	151	416	453	288	264	155	351	2,873
パ	5	4	3	4	5	4	4	3	4	36
平均 ストローク	5.38	5.65	4.16	5.00	6.03	4.60	4.67	3.78	6.02	45.29

※昭和60年2月24日・Aクラス月例杯競技者156名の平均ストロークです。(天候)晴・強風

やはり誰もが難しく感じる北11番ミドルホール。

平均ボギー以上の北12番ショートホール。



南アウト

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	TOTAL
メートル (BACK・BG)	302	453	141	334	348	362	206	292	445	2,883
パ　　ー	4	5	3	4	4	4	3	4	5	36
平均 ストローク	4.53	5.61	3.79	4.94	4.90	5.02	4.21	5.17	5.80	43.97

※昭和59年11月18日・Aクラス月例杯競技者174名の平均ストロークです。(天候)晴のち曇・微風

比較的、易しい南1番ミドルホール。



南4番ミドルホール。距離の割に難しい。



南イン

No.	10	11	12	13	14	15	16	17	18	TOTAL
メートル (BACK・BG)	337	302	159	389	500	324	139	467	394	3,011
パ　　ー	4	4	3	4	5	4	3	5	4	36
平均 ストローク	4.78	5.02	4.12	5.05	6.23	4.75	3.31	6.18	5.29	44.73

※昭和59年11月18日・Aクラス月例杯競技者174名の平均ストロークです。(天候)晴のち曇・微風

南インの両ロングホールは、比較的、難度が高くなった。左が南14番、右が17番。



黄金

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	TOTAL
メートル (BACK・BG)	455	138	370	147	359	366	288	404	463	2,990
パ　　ー	5	3	4	3	4	4	4	4	5	36
平均 ストローク	6.56	3.42	5.23	3.23	4.78	5.46	4.65	5.33	5.92	44.58

※昭和60年1月13日・Aクラス月例杯競技者142名の平均ストロークです。(天候)晴・無風

黄金の難度No.1はこの1番ロングホール。

この6番も難しい。



『概評』

競技委員長
桜井勝一



今回の難易度調査の結果を私は大変興味をもって待っておりました。大方は、私の予想通りの結果となりましたが、最も予想外であったのが北の1番ミドルホールよりも北3番ミドルホールの方が平均スコアが高くなった事。

ちなみに北1番の平均スコアは4.43、北3番は4.84ということで、私の予想とは全く逆の結果でした。

理由をいろいろ思いめぐらせてみましたが、1つには、北3番は距離が短いため、シングルプレーヤーがパーディー狙いに出てティーショットを左右にブラせてしまう事、もう1つは、やはりグリーン手前をバンカーがガードしているかないかの差が出たのではないかと思います。また、フェアウェイ右サイドの立ち木が微妙に影響を及ぼしている事も私の経験から考えられます。

北18番ミドルホールの平均スコアが6.02とダブルボギーを越えた事も意外でした。フルバックからはかなり難しいホールですが、おそらくフェアウェイが工事中でコンディションが満点でなかったせいもあるかと思えます。

総体的にAクラスとしては予想より高い平均スコアとなりましたが、芝が伸び、時候も良くなった頃に再び同じ調査をすれば、また違った結果が出るでしょう。

歴代チャンピオン



◆倶楽部選手権歴代優勝者

(1968年～1984年)

1968年	野 沢 茂
1969年	池 田 昭
1970年	小 野 弘 睦
1971年	片 渕 俊 史
1972年	半 田 純 一
1973年	東 武
1974年	斎 藤 勝 好
1975年	神 山 弘
1976年	斎 藤 正 春
1977年	小 暮 卓
1978年	得 能 三 郎
1979年	山 田 保太郎
1980年	山 田 保太郎
1981年	斎 藤 裕 一
1982年	佐々木 喜 堂
1983年	佐々木 喜 堂
1984年	得 能 三 郎

◆理事長杯歴代優勝者

(1968年～1984年)

1968年	古 沢 洋 三
1969年	呉 山 昌 圭
1970年	三 光 東 仁
1971年	桜 井 勝 一
1972年	村 松 三 雄
1973年	稲 垣 彦三郎
1974年	高 梨 豊 美
1975年	発生川 一 弘
1976年	大 塚 要 作
1977年	大 橋 育 夫
1978年	高 瀬 誠
1979年	渡 辺 雄 一
1980年	藤 岡 五 郎
1981年	五十嵐 秀 夫
1982年	金 子 靖 男
1983年	渡 部 正
1984年	藤 田 新一郎

Champion



◆セニア選手権歴代優勝者

(1970年～1984年)

1970年	浅見栄一
1971年	川本須恵男
1972年	森二郎
1973年	川本須恵男
1974年	大谷三良
1975年	田上達樹
1976年	東武
1977年	北田潤
1978年	西川勝夫
1979年	永吉美芳
1980年	武石小二郎
1981年	桜井勝一
1982年	小山久男
1983年	夷亀道次
1984年	大橋清

◆グランド・セニア選手権歴代優勝者

(1979年～1984年)

1979年	田村角十郎
1980年	武石小二郎
1981年	増田栄一
1982年	武石小二郎
1983年	小澤守夫
1984年	青木勝

◆キャプテン杯歴代優勝者

(1979年～1984年)

1979年	北村純一
1980年	佐々木喜堂
1981年	北村純一
1982年	広田次雄
1983年	小澤守夫
1984年	斎藤裕一

NEWS

倶楽部だより

コースだより

■新駐車場・進入路が完成、
ハウス前も造園されました。



昨年より進めてまいりました駐車場拡張工事が
昨年10月をもちまして完了いたしました。

これまで駐車場のスペースが十分でなく、とくに土曜・日曜には皆様にたいへんご迷惑をおかけいたしておりましたが、従来の第1駐車場に加え、新たに第2・第3駐車場を増設、これまでに比べ、約100台増の390台収容が可能となりました。従来よりも駐車場からクラブハウスまでが多少遠くなり、ご足労をおかけするかと存じますが、何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

また、これに伴いまして進入路も改造いたし、クラブハウス前もロータリー形式に造園するなど整地いたしました。

改造工事中、長らくご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

■会員諸氏からの数々のご寄贈品、
誠にありがとうございます。

古市繁治氏（大宮市）

「歩経路用ゴムマット・約20m」

竹澤孝雄氏（鹿沼市）

「サツキ・500本」

元木文ヱ門氏（国分寺町）

「五葉松・220本」

「男松・5本」

（株）ユー・エル・エー（東京都）

「営業用カーペットクリーナー・1台」

為慶太郎氏（川口市）

「当倶楽部マーク入ボールペン・2,000本」

（昭和56年より毎年寄贈）



元木氏寄贈の五葉松。

プレーのしおり

■ 4月1日より一部料金を改定させていただきます事になりました。

本年4月1日より下記の料金改定を実施させていただきます事になりました。

人件費及び諸物価漸増に対応するため、周辺ゴルフ場料金も参考にしつつ、財務委員会にて検討の上、最終的に理事会にてご承認をいただきました。何卒ご理解ご了承下さいますようお願い申し上げます。

財務委員長 吉田 稔

(1) キャディフィーの改定

ラウンド数	バッグ数	4 バッグ	3 バッグ
0.5R		¥1,700(旧1,500)	¥2,000(旧1,900)
1.0R		¥2,300(旧2,000)	¥2,900(旧2,600)
		※0.5Rオーバーする毎に ¥1,200追加	※0.5Rオーバーする毎に ¥1,400追加

※当倶楽部では、キャディフィーの割増料金(重量・荒天・時間外など)はいっさい申し受けておりません。

(2) 土・日・祭日のビジターフィー

¥14,000 (旧¥13,000)

※無記名法人会名(会員数63名)のグリーンフィーにつきましても¥11,000(旧¥10,000)に改定させていただきます。

■ 国鉄宇都宮駅お迎え倶楽部バス運行時間の変更について。

新幹線の「上野」乗入れに伴うダイヤ改正のため国鉄宇都宮駅へのお迎えの倶楽部バス運行時間が本年3月21日(祭)より下記の通り変更となりましたので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

◆国鉄宇都宮駅前発 午前8時35分(旧8時50分)

◆接続の主な電車

(上野発) (宇都宮着)

6:25(普通) → 8:25

6:53(特急なすの1号) → 8:17

7:18(新幹線あおば) → 8:11



競技記録

◆昭和59年度 倶楽部選手権競技 (南コース使用)



優勝の得能氏(左)と準優勝の橋田氏。

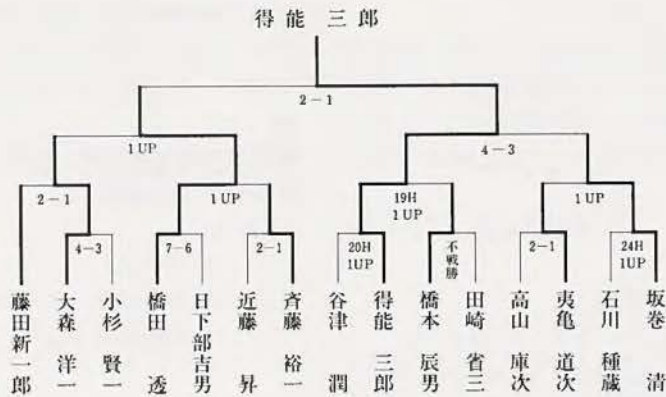
《ファーストフライト》

優勝 得能 三郎 3位 大森 洋一
 準優勝 橋田 透 3位 坂巻 清
 メダリスト 藤田新一郎

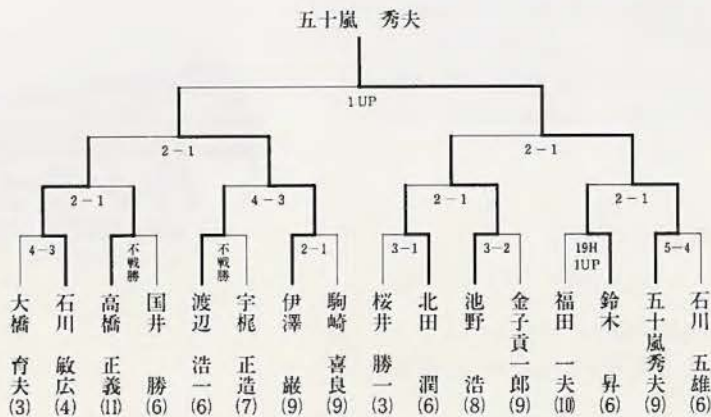
《セコンドフライト》

優勝 五十嵐秀夫(9) 3位 石川 敏広(4)
 準優勝 伊澤 巖(9) 3位 池野 浩(8)

ファーストフライト



セコンドフライト



◆グランドセニア選手権(昭和59年度)

- 予選10月19日(金)：決勝10月28日(日)
- 各18H.S.P(スクラッチ)北コース
- 年齢 満60歳以上

順位	氏名	予選		決勝		TOTAL
		OUT	IN	OUT	IN	
優勝	青木 勝	38	46	41	43	168
準優勝	名見耶達夫	42	43	41	42	168
3位	田上 達樹	44	45	41	39	169
4位	坂本平一郎	41	45	44	42	172
5位	知久田勇次	46	42	46	38	172



前列左から準優勝名見耶氏、優勝青木氏。
後列左から5位知久田氏、3位田上氏、4位坂本氏。

◆59年9月度 月例杯(南コース)

<Aクラス>

	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝 佐藤 寿美	42	39	81	14	67
2位 阿久津共衛	41	40	81	14	67
3位 秋山 定夫	39	43	82	15	67
4位 島田 巖	40	42	82	14	68
5位 坪野谷守彦	41	37	78	10	68
6位 落合 旭	42	41	83	15	68
B.G 北村 純一	38	34	72		

<Bクラス>

優勝 飯村 充男	46	39	85	20	65
2位 栗原 道夫	40	42	82	17	65
3位 関 孝雄	42	45	87	21	66
4位 町井 亮行	43	45	88	21	67
5位 粕尾 庄治	42	42	84	17	67
6位 野沢 義夫	41	45	86	18	68
B.G 栗原 道夫	40	42	82		

<Cクラス>

優勝 田口 忠幸	47	41	88	24	64
2位 関 郁子	47	48	95	30	65
3位 上田 惇生	46	44	90	23	67
4位 本橋 輝男	46	43	89	22	67
5位 遠藤 満則	49	48	97	30	67
6位 池羽 庄吉	46	47	93	25	68
B.G 田口 忠幸	47	41	88		

◆59年10月度 月例杯(北コース)

<Aクラス>

	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝 渡辺欣一郎	41	36	77	11	66
2位 南木 昭二	39	42	81	14	67
3位 鈴木 浩二	38	42	80	13	67
4位 千葉 峻	40	41	81	14	67
5位 小杉 賢一	39	38	77	10	67
6位 福富 昭吾	42	39	81	13	68
B.G 広田 次雄	40	33	73		

<Bクラス>

優勝 長岡 昌	40	44	84	19	65
2位 神藤 正夫	44	38	82	17	65
3位 宮原 公平	45	41	85	21	65
4位 矢部 一彦	41	45	86	20	66
5位 日比野宣男	43	43	86	19	67
6位 有村 茂	43	45	88	21	67
B.G 神藤 正夫	44	38	82		

<Cクラス>

優勝 吉田 彰一	40	44	84	22	62
2位 杉山 方子	50	43	93	30	63
3位 田続 明	48	46	94	30	64
4位 菅谷 秀雄	47	48	95	30	65
5位 原沢 秀一	47	48	95	30	65
6位 木村 勝司	48	47	95	30	65
B.G 吉田 彰一	40	44	84		

◆59年11月度 月例杯(南コース)

<Aクラス>

	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝 石村 昌治	38	39	77	16	61
2位 野田 祐次	39	43	82	15	67
3位 福富 昭吾	39	40	79	11	68
4位 小林 康平	41	43	84	16	68
5位 広田 次雄	33	38	71	3	68
6位 宗石 享	39	44	83	14	69
B.G 広田 次雄	33	38	71		

<Bクラス>

優勝 荒川 義任	44	41	85	17	68
2位 山本 豊	41	45	86	18	68
3位 渡部 征郎	47	41	88	19	69
4位 川島 敏夫	41	46	87	18	69
5位 山賀 七郎	42	45	87	17	70
6位 加藤 月忠	42	47	89	19	70
B.G 荒川 義任	44	41	85		

<Cクラス>

優勝 渡辺 恒永	41	43	84	22	62
2位 森本 安雄	50	44	94	29	65
3位 長尾 徳	47	44	91	26	65
4位 伊藤 暢治	49	48	97	30	67
5位 町田 登	48	44	92	24	68
6位 新江 清	48	49	97	29	68
B.G 渡辺 恒永	41	43	84		

クラブハウスいまむかし



昭和47年当時



現在

玄関に大きな変化はないが、クロック部分が大きく変わった。
クラブハウス前の植え込みも、樹木の種類が異っている。最も目を引くのは煙突の違い。角型のクラシックなスタイルから形も色もモダンになった。(昭和49年のクラブハウス改造による。)

編集後記

会報「かぬま」の当20周年記念号制作にあたりましては、お忙しい中、多くの皆様にご協力を賜りました。ほんとうにありがとうございました。皆様のお力添えに報い得る編集ができたものか、甚だ心もとない次第ですが、なんとか発行にこぎつける事ができ、ほっといたしております。

さて、ひとくちに20年と申しますが、当時まだ不惑の40歳であった方が還暦を迎えるお歳になったわけで、オープンまもない頃の競技表彰式の写真などを見て今のご本人と比較しますと、さすがに月日のうつろいを感じさせられます。

当時、鋭いショットで勝ちまくった青年ゴルファーが、今はセニア入りをし、息子さんを連れて悠々とラウンドされている風景など見ますと、な

んとなく心あたたり、嬉しい気がしてまいります。

やがて、その息子さんの髪にも白いものが目立ち始める頃、同様にお子さんを連れて鹿沼カントリー倶楽部にラウンドに見えていただけるなら、倶楽部として、これにまさる喜びはございません。

親子代々、いつまでも変わらぬ愛着を伝え続けていただけるよう、今後とも精一杯の努力をしてまいりたいと考えます。

30周年記念号を出す頃には誰がどう変わるやら、今から楽しみに、せいぜい写真を撮りまくっておくとしましょう。

〈パブリケーション委員会〉事務局

会報 かぬま 開場20周年記念号(第26号)

■印刷／昭和60年3月20日 ■発行／昭和60年4月1日

■発行／株式会社鹿沼カントリー倶楽部

栃木県鹿沼市藤江町1545-2 電話0289(75)2131(代)

■編集／鹿沼カントリー倶楽部パブリケーション委員会

■印刷／優和印刷株式会社

東京都文京区本駒込3-5-1 電話03(822)4311(代)



鹿沼周辺 観光案内マップ



会報 *かぬい* No.26
開場 20 周年記念号

鹿沼カントリー倶楽部